産書 上

a 10-1

Kitasato Memorial Medical Library

F 1
7-6

1~3
3冊のうち
490.4
As
1
No.1170
12 a 10-1

慶應義塾大学医学情報センター
昭和47年6月26日

富士川文庫

551

Kitasato Memorial Medical Library

巻之川上巻目録

一 仁義之郷人物之
一 陰陽
一 太極
一 傷秋光
一 人心大第一之事
一 人の心を迷ふ
一 僻ふかい百ふ機之人の病
一 太周書
一 明智勇之分度障之事
一 人と書
一 家居其住ふ微之
一 桂花房
一 佐柿上絶不
一 二十四孝花伝風
一 神之月
一 賛伝屋
一 中〳〵の何
一 如王之事
一 古月之之頼
一 ざようの人伝伝

Kitasato Memorial Medical Library

一 [illegible]
一 山[illegible]人
一 世[illegible]
一 人[illegible]必解[illegible]
一 敬[illegible]
一 明[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]

同中巻

一 [illegible]
一 書[illegible]

一 人[illegible]
一 時[illegible]
一 佛[illegible]
一 世[illegible]
一 中[illegible]
一 [illegible]
一 和[illegible]
一 道[illegible]

一 異心[illegible]
一 五行の数

一 [illegible]
一 雷
一 [illegible]
一 日月
一 人[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 天[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]

一 [illegible]
一 夏風
一 天の[illegible]
一 天地周圍
一 [illegible]
一 [illegible]
一 周易
一 [illegible]
一 [illegible]
一 中[illegible]
一 [illegible]

Kitasato Memorial Medical Library

一 [illegible]
一 山[illegible]人
一 世中[illegible]
一 人[illegible]必[illegible]
一 敬[illegible]
一 明[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]

同中巻

一 [illegible]
一 書[illegible]

一 人[illegible]
一 時[illegible]
一 佛[illegible]
一 世[illegible]
一 中[illegible]
一 [illegible]
一 和[illegible]
一 道[illegible]

一 墨心居士
一 五行の数

一 [illegible]
一 雷
一 風[illegible]生
一 日月
一 人[illegible]始
一 [illegible]
一 [illegible]不仁也
一 天[illegible]
一 [illegible]湯
一 [illegible]
一 [illegible]

一 [illegible]
一 風
一 天の[illegible]
一 天地周圍
一 [illegible]
一 [illegible]神[illegible]
一 周易
一 [illegible]
一 初[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]

Kitasato Memorial Medical Library

一 祭祀
一 製法祀
一 多神教

同下卷

一 僧侶
一 妖魔鬼人
一 石男石女性一男一女
一 禽獸の性
一 家の齋
一 類子之系
一 北斗星
一 父母の魂魄
一 兄弟と住する人の驚
一 馬を人と共に此を乙牛と称する
一 往の心動
一 畜生化物
一 結髪を奇特と造化の度天
一 如八幡宮上宮
一 婚姻
一 牽牛織女

一 易の活断
一 性情の志意
一 義を持つて者を嫌ひ老を好ハ
一 仏者儒者を佛を辯

以上

Kitasato Memorial Medical Library

高砂考之歌

君が為　命高砂　松と形
雅心　むつ[illegible]の[illegible]義[illegible]

世と事とにて[illegible]
むつぶとまるる。まして鬱ひろうぶんれど。
たくしひをけ。解すもあるぶ。ぶろうつ。性
ぶりさりにのまるぶひとちうとめて。宿小
童ぶよ。ぶあさんとすまぶあうぶ。虎
豹の一班ぶりかぶやしんぶ事にうりぬ。
ちう聖異れまろ。ぶ。測ぶさぶぐくうれど。
つまさ年ちうぶまう。ぶめまば。れぶよるぶ。ん。れぶ
する。彩色川ぶ名づけしぶもぶまるうり。干時慶
安元年。閏年。九月後日。伊勢国の住。織下子三
柳。義陽行うをひて。ぶまれまうし。ぶる。

Kitasato Memorial Medical Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

君をはじめ人もはやうまでこそ己がためよすがるびぞれ
ぞ仁義と号するはのやうりゐ仁不義とものこをと
るゆ佛はもろ悟りの人とやんいひてゐぞれ
なぐひとやめしぞよ攀作すく下已形と絶す
ゆ見ぞすこれくれたくひづまよりいつまころ
しといんなるく未代の愚俗るとやんのと
ハちのやさいひてなのまこゆうるものやとなよ
る我も未代乃愚俗るもばめ抜の離間が嫌乃
拙と笑ゆ例らされば己が分ゆうあれかにと
さて見ぬとるたまへぞるこゆ他の幸と寝眠す
かゆおもはいすれば人おもひ己りのうまなむ
ちくさ人乃濁まるともきよんゆいつとるく時ゆ結
すやあんん

二

法ゆい根な一氣るもとく本極の動揺よりして分れ
て二もとるまり濁さりの明るるや輕や外
もの進りの動たくひ寧の教園くち強き熱き見
なるとゆ濁るとゆ濁るものの時さりの甲や重や濁りの
遅りの動るるたくひ偏の教方るくちゆ弱き
さ見ゆる法ゆ法といとよはめそいくぞ
濁とゆ地ゆ法とす言伝といくたと業い濁
て右と後い法やゆりてゆ義い須秋ゆくい法畳い

Kitasato Memorial Medical Library

湯。我ハ法。人ハ男と湯と。女と法と。生物と水と法と。火と湯と。すべハ湯。獣ハ法。木ハ湯。草ハ法。鳥ハ法。蟲ハ湯。魚ハ法。鳥ハ湯。蛇ハ法。人ハ湯。死ハ法。とぐて。あらゆる物として。法湯よりづまたる事なり。ここまでハ分法ハ法乃中に法湯あり。湯の中ニも又法湯あり。法湯ハ行ハ法湯よりまたまて。一行各法湯ハ方物ハ法湯よりまたて。一物各法湯ハ方物ハ法湯ハ孔子の易有太極とのこと。

太極とハ。ハ。ハ。

根極とつくり始まりに太極は理なり名なり事と知る
べしさるに太極を天地人物のうちにそなへ一理より
生ずるまでつくる事物のよりどころ一理にそなへ
ざるいまだ物なく物なく一太極という用は天地人物
でいるはまだ一用なり一用は第四に流て第四又その
性質の人に活動分別なり太極とんにいる
ゆえすでに性に牛庸は強とつひ極極は一理とつひ
あるべき性に不善の動あるにて太極と二物
あるべきにあらず極の動静の化の化合より
ひとつ眞の懷新道の[illegible]
人やうつるべくして[illegible]
よ高きとあるよりて[illegible]
形なるとの[illegible]
[illegible]
カハ[illegible]のようあるて道の[illegible]
ふるまる人いかりの[illegible]
[illegible]
て性とつの性[illegible]
極より分生三綱五常[illegible]
ものくに太極[illegible]

Kitasato Memorial Medical Library

我さら絵ばかりよりついてはなはだつぶさに説明せり
女子相はよりて男性完全ハ女性の生者也
男女ともに有陰陽ハ生ハ鳥獣たり
しかれども人の圖説出ずるに説明を性乃人
之形なり

四

儒釈道の三ハ鼎乃三足ごとしてとてかくべ
くもなし。三教一致とかん世
人いとど大明鄭未業ハ人の分別を絶海
せり。○佛法の立まそ。ハどもるもとも。さまハ金剛
経ハ凡所有相皆是虚妄とハ。一切有為法
人夢幻泡影露亦如電とかくの事ハ
ハたゝ泡ハ虚妄なる大地万物の中ハ
法の行きものの有る佛ハ教ハ
我獨尊とハ。惠能ハ教ハ天上天下唯
天下独尊とハ有。一物霊長上拄
地といへ。くあらがくさ物ハ行物
物ハ。ハ。ハ。

して。人念の動き。ちりふ。ぢ大の作合し
て。すべる形よりはかて。同さ。ぢ紙思ひ耳い形と
欲ましぢ。言葉又幻よりして。六塵縁乱まり来り。紙
う。叙述のふと。戦賊もあるようて。ぢの幻影のあ
る。紛擾乱ぢ。まつ。寧動する事をひさうべ。
弔意法あ。捐。あ。ぢ。紙い。独くよあ。ぢ。ぢ。
しく。わ代紙ち。神と離て。会安ぢ。ぢ。時い安孫
既る影して。真室とものづ。現ぢ。ぢ。時よいさら
て。感照。ぢ。ぢ。神いつ。よ。寂。ぢ。ぢ。
ぢいつ。ゆ。ぢ。ものづ。ぢ。懼。ぢ。ぢ。紙。ぢ。
あ。ぢ。て。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ

といふもやさきもがんはうに成猶の義なり及ぶなり如
を思ひぬざる事に成慮り利と計らず實に校り或
厚く憂ひ案と暮らしよる場合法胸中より戦て
精神を動揺し心和同し清靜をよく保ち
心氣に主として動かさざる時は心乃知覺
明らに贊襄すといふべし元自然の理に成言ふ
事あたゝずして乱もなしてゞ乱る事と成り
也若学の学と旨や。○儒者は理に立て主とす。
の理にばかりてはすなわち理の外に
靜を忘るゝ事なしてゞ理に純
と雲くしは人は富するの名づけて性と
いふ。仁義礼智は性の固有にして理の変化なり。
しんのみにて理なるは外書の邊に見
きどゝ孔のみにて理なるは聖人の
なりかくのごとくなるものは
らむや。情むべき理あれ

Kitasato Memorial Medical Library

合つゞきなれあまじ。もし始の情とすると。人会の記
と物まて。強て載割するがたゞひとれあるべき義よ
あらて。身行まざまい死すべき理まるを生
ゆ。本なし。修業とみるとて。まと倫むのたゞひ
まるあゝ。ゆきまむ聖人の世すでよ遠して異端
の学ところぬ。孔道とふしんをふすの石義
みて。まのきいあよ。蛇よりそうむやかの臆説
うて。ゆせるまあらまかまれる事なし。
もして。儒門の事といくゞひ理のんよおもう教
ゆ心学徹底明るゆしひ理のんと事よ教よ氣法
ゆ。ゆ。ゆ。

任滅是空病とあるとそれを作いの明もを止いあるを
思るり。任滅いの所是を未とるいるの是非を知る
て逍遥一笛の長子思のてそゆゆるを入不自得報
生の一笛の長子の所縛彩甚の折を事とるいるの樹や
上業の長子設して天下のそよ者の自意意を知
ちるぐりしよ佛氏一班ま無とるぐひるるを。
るりて。彼都多有偽とるいるりるまだ佛氏を
老氏も。宏才雄辯なる事のるの乃人なるの
ぐ。来るの傳者先賢の佛老を排せるとそ
て。顰るるるるて。妄よ邪説する事るるまじるる
どるいぐすれるまるの正史るよ

五

病とうりてくるくるやそ人のるるるるひ病
るまのまいるるるるひるるるるるるるるるるる
ひるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ひ人は年ごろ佛老のたとりて空と味の家を
るて世よ執著るるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるる

六

人のるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるる

Kitasato Memorial Medical Library

きやうぶさまのものいひ。女はとまるる物うれへ入れれ
やのつぼ田ぶちまとれ。はきのり出てゐる。あり。
風俗はたぐえいそんあるいれどうるさき家とこの
おやだちのする物もつぎくるへの文書よむうひ和ふ
ぬんのうちもぎやくアんあ田ひようぎる事紙。
人の問ひなるとりのつくまぐつとりのつ金紙
貨財つもくいる。胃肉の親。例頭の友とつぐ。
たちまち机敵れ田ひとる。四人の士張新の吏
とつどかまぐだなつ。志とうぐぼ一年の中天下
よ縁やくるりのとちくるーえたんい貨財れた
やよ死ぐんりのすれ神りの。れは居ぐ。華歌が金
日天下武辞し話ひとぐ。ものとも百姓とうりまも
しれのある如のまるかせり。

七

の富とりして屋武酒の財とまみぐいんぐき
ぐるりりさまどぐ。まりりて接まぐ。農業
物ようりまようりる。ぐるりりとぐこりりぐ。若ぐ
けて。障すいりりとぐこりりぐ。若ぐ
病やたへぐとのまり愛。ようりて活横るさ人の
ぬまとるようと田ひ憂のとるぐめぐるり。歌云
う藻嫌と愛せたるの後ようまるーー
と田りぐるぐこりとのまぐみくむりのーあれ

Kitasato Memorial Medical Library

むかしさき孝とも申すものありけり。むしとりをこのみ
まことに孝義が比干殺されて世とうるはしくなりぬ。孫と申ひぎ
うるとも。まいりまいり園のうちのきものとてあるべくも
そなへうと。項籍い沛公よりつかはさるのとてれ
とても。たのもしべうと。顔回も陋巷よりて富あ
つとても。驕うべうと。石崇も金谷より捕まて。
ようさ人のこゝろざしうとてあるべしよ信じるが
昭公とも礼をまうとせもやつさる人のこと
うもしべとてひとすうよもそとうじ竟夢行そ。
葡萄義は自らなまうあるまでうこゝろざしてうさもしび。
うるなん。孝おいまうろいあるさ口ひさとてうこゝろで。
そへうと。孝ようなどせどうてゆ代ちうべうるどけて
ちうとうとうて功ありうじつ人ぎうて孫あうじ。忠
うくい信せて。述うくいたるうまじ。
関白秀吉公は匹まうて。邦の人牧とうり
孫の武勇まううあるとやう人でうる男祢の
やうよ田つうあうさ人のいひ伝うけ
もさうまれあうどひとすう完仁大なりて天
のゆうやう人をの冥量なうはりて天下を
ひつうう服ーたうとうん涙のうる孤の基祢し
て。罵ひとひのんけうる氏のひんとんうん勇気

Kitasato Memorial Medical Library

の人といつくけまとて大度の人をめ節は屋敷ぬ
乱家閑雑の書乃ぬ乃ぬ如あるあつぱ乃ぬ乃下
の如果ようて天下の如剛と制し弱ぬる能
ぬ。級孫通法貴ぬ乃ぬ乃ぬ人ぬ
ようりぬまとぬ家百姓乃ぬ乃ぬ乃ぬ
秀吉乃自分乃幼ぬ乃ぬ乃ぬ孫のぬ乃ぬ
ぬり弱ぬ乃ぬ。天世ようて亡び弱ぬ乃ぬ人ぬ。

九

惟任日向守攻別ぬ。ぬぬぬぬぬぬぬ。秀吉ぬ力と
ぬぬぬぬ。信長出合せぬぬぬ。惟任乃ぬ
で行ぬぬと言ぬ。ぬぬぬ乃ぬ乃ぬ
ぬぬぬ。惟任乃後車乃

仏もろうふ作く本ゞ宇治川の先陣争ひ
一番のに賜たぐひの事。梶原をろ人あまだぞ
まとやめ居て感じろ。ものひるまどさてもあ
はまぐき事うるとぺんのめりそ。ろ人ひん
ばるのやくまつまこ事よ。武勇のひと新ぎ
はあまよびどあさきすぐちとどうひもと
や作く本結ぞるまとて。影神すもあ
ばる武士ろうくまとて今の人るまとてるどう
ぺるまくふとちんぺりまのぺらもせ
と思ぺぐ武あまもひまるまくぺうひるさ事やさ
ぜどのあるくぺてあるのぺるまくぺ
みとものぺるくのぐ
ぺ紙作ぺ周ろまぐ
宮ぞ居ぺまわぐのの
時ぞまぐのて。住居の
ぺつるぺる。石のもく
まぞりぐるのまぺ後ぞ他人のぞまたん時ぞ
ぐるふぐのぞまくぺひのまくんもぺあう
ぺりぐん。光舞ぺ大ぺの船ぞまりうぐぺ塔
ぺ人ぺて。新花石
姫宮帝のすぐまて。高剛とくるやうぺ。ぺ作ひ

くんどくのうすく人きわめて遠代もく人のきく
哉と思つべけれどもこのうへあるの浮代もく人よ
てゝ孫無高たらべくいぬ紙一代ゝかくるまうすと
ものおもはまのちんゝ孫の世のうそぶくるひなの
まてと思ひすてゝ孫のぞくふぞくあ代のるるでいるす
ものあくべくとくくあるこしゝ孫ひりこいはゝ孫あ
ゆまくきちくくまやまきくんぷく世もあらで
社稷どうるひ孫やえんのをぐもすさくるふ
ゆまひとぐつくへりゝ橋夏せぐらさ況や庶
民高貴の分ゝてどゝ紙ぞうゝぞりゝくゝ
ぞくうゝくゝくゝ輝慶紙ゝ鹿痛亀ゝ

の俗はあくさまゝ輝慶紙ゝ鹿痛亀ゝ
るの屋やゝやとくくを
年樣の花をゝてくやと事のありて僧俗夷
ゝの表別もあくをひくくゝ牡蠣の者とゝ行ひ
ゝ紙ゝぐつくくゝくくゝぐゝ園あるあとゝだゝのゝぐ
きゝ強と親鸞ゝ紙問ゝぞゝてあるゝもせどさゝ
入まくくゝ花はくくくくゝくくゝくくゝ
くくゝ色をゝ出ゝてきゝ花一枝ゝくくゝ多ゝり
つくくくゝ花のくくゝくくゝくくゝ紙もひゝ
くくくくく

Kitasato Memorial Medical Library

て巫三峽とをり〳〵男ひ。幸吟若杉して。ちいて
はうんいつら彼花とうへて。楽くくうんぴ係のく
ふわひへのんぷてくうまどがごとく。姫の名うまど
人とすぐらと書かくのごとく。巫して様へ向さ
ぐ。あさひへくあれうでぬるやうぬぴ時ま
でぬる人ひつくりてあるぬぴてぬ花の
ちかく。百品。あまりぬ。さまで。茶の拍。月くく。
月ぎくくふくらいで。壁裏影原ありとうてくら。
ひう。醜代ふへ男人ひへく。我ぬうへ勇士あま
ぬ。ぬるくぬ。出合くうるものあくとんるの月

清水様ぬ。ぬ。清水様ぬ。ぬ。菓ぬ。清水
のあり。清水様乃枝とつぬ。ぬ。菓ぬ。菓乃味
ゆうるまはうずして。来うう枝はうまうく
来ハ同乳ぬ求ぬくく。くるもん。来の枝。年けま
ぬ。年さ乳液とすいあぐぬ。清乳ぬくのぬ
ら。菓乃年さくくまぬ。来の枝。清乳ぬ。清
乳液とすいあぐる。年乳ぬくくくくくぬ。菓の
清さいくまぬ。絃水ぬ。絃ぬ。一流ぬ。姫花と乾
とく如花と坤とす。根の乳。資姫といくぬ。枝乃
乳。資。面人。枝の乳ぬ。ぬくくぬ。花いくく。
十四番花花の風とやハ。廣紙遊ぬ人。花信紙

Kitasato Memorial Medical Library

いて。時候とさくらの名所。凡四月八日よりまり。
四月八日はたうぶまつる。水内郡より繁栄すれば水は
のまず。名所なりと。五月八日より十二月
八世まで。たやさしゆへなり。名所の後。五候と小雪と
して。十二月の節やうまりより。来年三月穀雨ま
でいうぞつくまで。二十月。二候八日ありよりて
二十四候とす。一候ごとに。花の風信といくこれ
よ。花とは。小雪の一候は梅花。二候は山茶。三候は水
仙。大雪の一候は瑞香。二候は蘭花。三候は山礬。
冬至の一候は侵梅。二候は櫻桃。三候は望春。雨
水の一候は桃花。二候は棣棠。三候は薔薇。微雪分
の一候は海棠。二候は梨花。三候は木蘭。清明の
一候は桐花。二候は麦花。三候は柳花。穀雨の一候
は牡丹。二候は酴醾。三候は楝花。やしは花ばかりの時は
立夏とする。

十五

十月と云神月といつる事いつるいとまもなく。
くの神はいらっしゃる月は諸神出雲の大社へあつ
まり給ふ故。出雲よりの名神月といつるまで
諸国は。云神月のいとまやともいつるさまと出雲
人よりえて。彼国より。云神月といつとぞ。又十月は
坤の卦にして。純陰の月なるべし。神なるさいと

まつ。云祢月といつるとぞ。ぴるの紙なるよろぬよ
やさる祢書を見ばりしお人い母の胎字十ケ
月よりて生る。十月よりあるる月い母の服肉よ人
るさいへよ。云祢月といつる母の服肉もみ。一世産か
ぬ有やぴ生まを出しる知をさりて。出雲の大社とい
つるぞ。せまを表して。年中ハ十月とも。云祢
月といひて。出雲の大社へ行祢のおつまり給ふやう
ぬいひるるるときこふ祢ハいかぬ事ぞもの
みして。秘密する事るまと。人のうさぐる事。
いひあるさぐらんも。服ゆくくるんハ化すもびあるう
ぬとまりて祢といひ。ぬ分祢やみ十月と鬼ハ地母よ人
して。海来後の母や十一月とよう属するを坤
のるるまびや人間の産育ハ異る事るさるや。
十六 讃岐の屋敷い海の中よ。堆く樣りて。茅屋ハも
とかるるん地するるるるて屋敷といつるもなん。
十七 八幡と書ことこいるまるさるや。
世のこてすぎふいすへよるいひおやまりて久し
く待へ来ぬ事ぬ。もるん。信よ来さぐるる
さやうしとやんたいてぬぎさんとやぬ人のこて
ぴやうすてやよるるぬ。ぬ人ハ如とハ海猿乃ん
をいくんぴつて。ちる事ぬ。今い云孔なる

冥加

事とおもひ。つゝしめる氏じ。如至といふ。冥加の
時。冥に冥漠の業ましてゝ。ことさするん。加に加護の
ふるゝ人。しるの加護とは。ぶらりて。難き事をするを。
今に難きことば。冥加といふ。滿足不足の時に。この
字。去声なるべきと。今に入声にのみ。ばばひ
ゝ。

十八

中りくといふことゝ。人の行ひ事をうけがさ
ぬ時。答ることゝ。憲の欲するを。ゆるくみるよ
ゝ。ゆるすことゝ。ゆるすことゝ。ゆるすことゝ。
ゆるすことゝ。言則必有中といふる
ゆるすことゝ。仲尼の恩情中道絶故
どゝ。

十九

前和別の左守大光流虫相ハそのほやんごとなき人
やゝ。やゝ。やゝき讃。行ひき事をゝ。ぶらやゝみて
ふるゝ。虫相ハ。すれば。行ひ。ゝ。ぶ。
ぶらゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。家の老ひ。ゝ。
き事に出て。歩行ひて。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。虫相打
笑ひて。
大和なるゝ郡のそばて山
ぶらゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

まくらのぞうよ。作ゆうそ。若侍とも。眉紙ひそ
めて退出。くくとうるん。入乃ゆうもく。されど
ぢくしれ字いづまるし。ちんとうはゆくうる事と
よまとゆんど。よのまゆやいすぐもたゆんあまい。
どのまうすてもみそくん。づま信終するべし。
おゆん古月宿とゆふ額を履脱のおゆりはかけを
さくゆ紙。友人のうそ。こゆまゆ。ひ額くべき外よ
あゆとゆふおゆじゆやていゆるゆいくまでとゆひけ
きむのあ人
うちれくひひゆるそのゆるゆ

とゆふ紙のんてゆうみのやひりどれあゆくまゆ
ものとゆ紙のあゆるまゆそやどそ行ゆくゆる。
ゆまりなる屏風袖つけたる物ゆるどゆるそのゆ
ゆずゆる。畳ゆくゆ。畳ゆて感慨ゆくゆのゆ
ゆくさむりのゆあゆど。形ゆ。ひゆげゆ書ゆすた
ゆ。ゆ春さゆのゆゆゆの。捨ゆ。人ゆゆ
や格ゆゆんと。奥ゆ入ゆあまゆ。ゆ人ゆとゆづゆて。ゆ
ゆきゆんと行ゆゆ。畳ゆてゆそゆあまゆ。傷ゆ乃
和の面紙ゆくゆし。洞庭の秋の月紙ゆるゆ
ゆゆゆゆも行ゆ。ゆまゆひゆ。物ゆゆ。新ゆる人の。
ゆれゆきゆの。ゆ。ゆのよゆ紙ゆまゆゆゆの雲の連

Kitasato Memorial Medical Library

鈍婦の殺人までのびてゆくなり書きぶり
ちゝぶのどくこもとしたゝまそさ
ぶりの人ゝゝんのまぶ紙のゆ多の紙
ぶるまびる紙ぶゝろうの結人文人義ゝ
ゆ罪のたゞひゝてゆくしゝまゝ

人と罪ゝゝは旅とゆそすゝ事いゝ人ゝれつし
ゝゝつゝさ外のやゝさゝ冊ゝとゝてゝ又ま
竟ゝたりゝまゝ離婚ゝ頑愚ゝゝゝ人ゝを
ゝまゝ雷叔い兄や周公いすや練紛ゝ先考ま
爲湯ゝたゝまゝたゞゝまゝゞゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝ罪刑のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ酔醒の過やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ罪紙も聘東倭のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

Kitasato Memorial Medical Library

九才四ゝ

九五乃天位よりのぞりなびかしめ勝ゑが壯士を斬さ
ってしいてしまいて人生の物あるべきめでたく花しをつく
びゆつる事あるを邪物の靈ゑうる紙なる獣のつた
く打ちひろいて殺す事とのことなりつまりたゞ天
下の人物といつたらしい。

四とちさあ民をうちびく人公ますて私ゑく者あ
きらふ程をくたをあるまりはきこまとよりの
ていつへの人は田ひ出めるよ。黄環とのひ人へ
南海のを寺よ除せるまるなは面ゑよ黄環と
ひりの兄弟四をあるその事作り。後年は事

川ん

環四ゑいてゑの兄弟をかの正紙百人ばかりてゑ。黄
下よ時ゑきりのい兄弟ゑやきを物ハ田地
るりたひ男花とゑるうとゑ。兄弟ゑんとうるふ
事は人ふせん骨肉のをきをすてゑ田地の
きをはりをひあるまるのひうるを田地な
ゑとゑて蒙衣のりのよるをきうは
きゑんの兄弟ゑりのをしめて程よ代し。を寺乃
弟よひまつてをうゑすうき事をいかゑ
しをきをり兄弟ゑ勝して爭のゑのさう
をうをうをうをで賈敷ゑ人。彩ゑ乃ゑ
はりしゑをゑまいをうて風俗をとゑゑ民の

Kitasato Memorial Medical Library

まどーきりのハぷりくぷとやーすりぞといぷへと
してるとやすりぷるるぷるるぷのいろりるり今ふの
つま後必やーるべしとぷがくいまめろるる後漁
もの盗おりてんとろろぷ北方ふ婦人ふ
ろりるぷ伴ふ多ふ若年まろ電彪車に乃
るてぷの出ろるふ車とりへ逃せんとふ彪
いりてりりくぷ盗の人どろるぷ常の程ぷと
してるぷ殺すまいるるもしき道ふたふ無
盗ふ十倍せりとてぷすやるふ紛てふ婦
人とろるせりぷ海ものの盗られとやてぷ盗ふた
ぷりのみやろ用ぷと弟ぷ死りるまぷ賣ふと名
ぷたりるぷ番道將京別の都督たりに外
盗ふとるせりぷ番道はるふりるぷ打死ろる。
後ふるるぷと国中ふ捜れるめて用紙ふてて
りるぷ。ぷをれ死するるりのハ裏別の都督や海を
哭ぷるりのハ所蜀番道やとてるるるるるぷ
張ふ定ぷ邪ふ守ふりぷ賊の黨ろ。耕
牛とろりて罪を遊てふかるまるるのを
定ぷ多ふゆるさんとりてぷ毎とりふまど
も賊人出ずぷ妻とろりんめるまだ賊人出ろ断ふりるる。
抹ふ毋十夜留書一宵。侍門の望何陳結髮る

情ゆゑ屋として帝ましてさきもむとるんこまつ
らひ公よりて払ふ。窮あきらかに程四十きに人
なりなるこ。

こさしげるるかのこめ人るこをて炉中に
れ紙高麗こよ灯を紙敲てものが弱びを
ひ終りる中ひり幸ありて俗に国紙
ねこんまれそ改そいぐすべ者といへむぐく
のを陸さまくりそ中ひ年ひる
人のひるに国の改い老無孔要を師こ。
四書六経を抽しくて改とりこ。刑罰とむ
て酒まかりかつるんに本人ひ紙ひ書ひ
人ひとりの書生ひそひ中ひるに年
ることと時と官とこるる紙と改といつ。唐い
ろこ人のい漢語ひて表教ようやもく。愚
直ひて教化は感じやすし。四書六経の教紙を
まひて勿まるよ。るるべ。中ひるこる
らず人のい測紙ひて割はとやり屋とく強
涙ひて教化よとこるやもく。況やよ石と赤紙
とこ。るるまるこやい今ひるひて始て国紙
ひて改とひこさじ武と光ひ文と後ひすく
やひるを。ひるへで罪ひ。悔ることひて。重罪乃色

Kitasato Memorial Medical Library

のハ急度ゆるしとそ悪も大ハ
とくりてだのりのハ
金銀をあたへ法度書樣とハさくもたゞへど潔
和歌をもうる事ニ
とくまて設こまりまくりしハ
つまて始て仕設とゆ
うハ罪犯とハ
悪賞とたくまて
乃の始ものんひ
なのくせハ
ハ法度の板物張
法度ハ入くハ緩と
むまあ郷傍の
のくそくとさて
能関ハ入くハ緩と
孔明ハとして八歳と
漢ハ歩ハ指してハ
とくく世の中さんと
ひてへとやくする事
まもあんまり貪して
新しのもくそくハ

ちりぞうどーて。愚うえ。佛はつくて
後の世と。ふぐうんまりぞ。ぐさとつくて。今の世とい
ぐ。ぼんあそ。男女ぜ。ひとりびてあこ。ぼんとり。
可欲と。ぐどーてひとりいあくまくてこのみて。
世ぐまぐとりてぐまくて。ぐさとりがくり。
はひさくりてそーつくとぐまあうまんよいまし。
佛はとそーぐりのくあ。ぐくんはて今まれかに後で
世といい事あくべくどー子お位ぐよ。神ぐまとのこ。
そまとぐいづくとさすぐ。ぐくせ。ぐむくり十お位な
らぐ。ぐ坐ひあくりぐまくてぐよ。ぐ。ぐるふ。
くのくまくよ。ぐてそのぐくぐ。ぐくべきて。ぐ。ぐ。
といつ地みあくくまくとぐ。ぐなくりぐ。ぐくとぐ。ぐ。
地獄へぐくくまくあ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
の事ひとくまぐくさぐそくくくや人犯すまぐ。ぐ。
くづくぐ。ぐいやくぐ。ぐ。ぐくくくてのくくぐ人地獄
まてぐくくのせあとくのくくくくくくくくくくよ
くくてぐくくくくくくくくくく

弘法遠といひ。惟心の淨土己身の弥陀とすのる。
地獄餓鬼畜生修羅人天八界の事ありて
こゝろ〳〵色目あるよりやぶさすれあらとも
るし。祇園ごとにいろりてくんはと絵とゝ
もゝとく〳〵祇師の賊そうすとこへゆゑ乃ぶく
ゐたるんれ郎て佛右1よ笑まこうん毒手瓶繪
すう事うるもの。

人ようとうのゝず。癖といつのゝ。ちいてゝあるま事
とへゆゝしなくべし。四海ハ雄義とちい枝義
庫を仏とゝのむ。庫全き茶紙ひさうう。山
端の橋ふ動う所。相国寺鹿ハ志とうゝ
ゝ。ゝ。ゝ。

貨財とむさぼりぬん。癖なるしいのてゆるがこ
し。奏の姫のまの。紀道ばりしの。栗の武帝乃。
佛はよ溢し。珍ひしも。智恵の事編なるの
うわら決。

三十八

世よるも。知音とふものこそなりまと。二葉れむ
し。弁馬の義風ふり。るまるす。こたるまりぬ
ちとそ。田ふんぼ。ぼぐ。ぐらい。ぼりつ。れ
む。まるひつ。田ふよのこすめ。申ぼぞれ
わさ。ふまと世よ。知音のふ。るれ。ふるんぬ。一校の
んありて。あとひしかぬ。ぬるのまこ。ぼい
ぼ。おふ。ぬ。ぬ。ぬ

祇候たるしく。威儀をとゝのへて。ねいらず。笑さ
ゆへ。結末の言葉。岩よりもかたく。ぜすきのい
よいよ。さゝやく時。奥うちたのかくひろめ
ら。姫なもるくて。ぢまつもくるうんとて乃
ゐてくたかとくやくくそてまいを
つくらんも。美味乃戒ずすもくろみやと思
姫。礼賜とれくけるもの。楽勝とれい流くるんゆ
とゝまやくさくへ。

大将くる人の大敵なうりてだくろくれるかも
くんくよかりのざくる人とゝ。明大将くらいもず。まも
明将くんくくく

ちからずゝ大軍ゝ迫まつり安危ちがく須臾
まあるところひ宴楽ぶくいに圍碁といひてもて
大臣南日の名勢とやさんや謝公が碁はかざる
ハ敵よりべきやもやとやうにて繃帯やうの事
人のこゝろつきつくまゝにそこらのこゝろ
事ハをなたゞしきさんの人のこゝろ人をなし
たゞしからずして人とおもはんとすることつゝ
たゝくどのまゝ後ろめてハ乱れを割しかく
とのまゝむさゞりて人の貪欲とゝかゝ
はなしてあとそれ
かゝしてあとそれ
もまあるんおやまぐ
つゝいてる人のこゝ
まゝ連れて来るやい
人のこゝたゞさん人も
しさまと有士のこゝ
ぐいぐいやん。

三十三

大和国郡山の家後とゝ片桐出雲ゝいひ
由よつゝ武士ゝ家ゝ玄ゝ燕の入ゝ
巣とゝ事あり。卵とゝ雛のこゝ
ろひゝ蛇のまゝて雛と蛇ゝ
事。

なくるるもの人割とりつぶ事まる剥腹式
ちつ孫ぶすべさやうちつ一ぶんといふ
時もの雛の卵とまるりてぶりぶりちちり
や事りろん梁と色て家ろ中途より義く
魂のごくまくうまりめるとろまバ胸腹のわち
とるは刺るぶちいされけまてつさ典て生ま
うまろ式家人ぶうくて果よるのりてこれ
とろまじ蛇のまれろ途ぶ土と堆して針とを
ちるつさたてどさろ人ぶりでありろる燕乃撥
小ろ物だるまのたるよ帆と弟するのんざ礼
蜜と知ぶちぶんとて父の難ぶすちとつさ
たさ日かんるのたうろんや家

人のうまるるん。
和歌のたまぶるばるるぶどりろりて。
ぶつるぶひとつじ儒ぶりや事りろん紀
典ろが古今集の序ぶ
の道ろ乃浮橋のトるて。ぶるひ弧。
歌のたりりるもじすてよ一張ぶ河八喝
和ぶかるじ神ろい儒道の性理神書八易経
の略書ぶもべるへいは法廣ぶ登録し。論侯
と令盟するもぶるぶ。ぶろるるどぶ嘉
法世の枢要ぶて儒のまろるいべ。戒邦

Kitasato Memorial Medical Library

の先まで。和歌と同人事。是同じ義
と表し。十神となつる。神系傳る系のごとく。周
知の遺言なるのあるべし。そのこと神道
いひやさまつりのだに。辛仏のこと。寂とつり
て。山かくまで。吟じていと音と祝ぐ。
詠して。儒門の四道とすれめるようもいく
のつ。神あること和歌の
つ。まつりと思ひさざ。風伝のうひ。況や
仏教弘法廣しての。ちの部。野人の神と
作りしようい某。儒仏一致よるりめ。
江湖のもらずきまやと人
山るよ。仏の二人ありあのて。雑説し居ようと
あさまきき。色合の事ありて。抽と色はまもて。
の仏のいちく。善悪ハ仏の知覚まべかるのよ
ハいはまも。絶さまりしきいひる代今一人
の仏の雑て。衆生ちる。くある中まてかまう
乃ち。猶仏道よりあるハ過去乃罪業ようにあ。
現世のてき因縁を。仏のちなまるべし
かく。罪業のりのハ。弥も絶ることいひて。
あるこれ手屋まざりと。院主のやて。多経
とりの仏の道とてへつまとまうといひぐ。

ど。罪業ハ。(毛孔)ゴ分ヨリ。あり。為煩ハ。(毛孔)ヨリ。あり。かゆ事ゴ
罪業。ゴ為煩とけ。のうす事あさりゴ。たゴ放し
殺へとゴいひ。ゴ。ゴ。ゴ。んゴ。ゴ。他事ゴ。通ゴべし。
乃理といふ事ハ。世ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。
書籍の中ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。ゴ。
ゴ。ゴ。

Kitasato Memorial Medical Library